

令和6年度 学校推薦型選抜 小論文（第一部 商経学科）解答例

問1（40点）

【採点のポイント】

- ・従属人口指数を踏まえた対比をしながら、違いが論じられているか。
- ・経済発展との関連性を論理的に説明できているか。

【解答例】

人口は、15歳から64歳の働く現役世代（支える側）と、0歳から14歳及び65歳以上の年少・高齢世代（支えられる側）に分けることができる。

「人口ボーナス」とは、支える側の人口が支えられる側の人口を上回っていることで、支えられる側1人の扶養を、支える側は1人以上で余裕をもって負担することができるため、社会全体で余剰が生まれ、その後の経済発展につながる投資に回すことが可能となることをいう。

一方、「人口オーナス」とは、支える側の人口が支えられる側の人口と等しいか下回っていることで、支えられる側1人あたりの扶養を、支える側1人または1人未満で負担することとなり、社会全体でその後の経済発展につながる余剰が生まれにくいことをいう。

(307字)

問2（60点）

【採点のポイント】

- ・少子高齢化の進展によって生じる問題を取り上げ、説明ができているか。
- ・必要な対策を論理的に記述できているか。

【解答例①】

私は、少子高齢化が進む日本社会で今後、労働者数が減少していくことが問題だと考える。しかも、若者は仕事を求めて都市部に移住することも多いため、農村部や離島地域ではこの問題が一層深刻に進みつつある。

すでに農業などで担い手が地元で見つからずに、外国人が働く姿も見られるが、現在の制度では外国人労働者の待遇が悪く、人権面でも問題が指摘されていると聞く。外国人を安く便利に使える労働者としてのみ扱っているとしたら問題である。

労働者である前に、人間として互いに尊重し合える体制をつくらなければならない。そのためには、国籍に関係なく誰でも暮らしやすい多文化共生の社会をつくることも必要である。経済的には豊かな日本社会であるため、誰もが暮らしやすくなれば、人口減少の負の連鎖に歯止めがかかると考える。

(342字)

【解答例②】

私は、高齢者にかかる医療費の増大が問題だと考える。今後ますます高齢者の数が増えることで、国の財政に占める高齢者医療費の割合が大きくなり、教育や子育てなど若者世代に必要な政策を行う余地が小さくなるのではないかと思う。

この問題を改善するための対策として、私は「健康寿命」を延ばす取り組みが必要と考える。国や地方自治体が主導し、地域企業なども巻き込んで、健康維持や病気の予防に関する取り組みを積極的に推進する。家族単位の取り組みとすることで、子供のころから健康維持や病気予防に対する意識が身に付き、大人になっても継続することが期待される。このような取り組みを続けることで、国民の健康への意識が高まり、高齢者となっても病院にかからず健康体で過ごせる人の数が増えるのではないだろうか。結果として、日本人全体の「健康寿命」の伸びが「平均寿命」の伸びを上回るようになれば、高齢者医療費は減少に転じることが期待されると思う。

(408 字)